上川中部定住自立圏形成協定で調印式

10月1日、旭川市役所で上川中部定住自立圏構想の調印式が行われました。

共通の生活圏に暮らす地域で、テーマごとに各町の実情にあわせて事業連携して生活機能強化に取り組み、ともに住みやすい地域づくりを進めようというものです。

そのテーマは、医療（二次医療体制の公的医療機関輪番制、小児救急医療の連携・診療体制確保など）、こども緊急さぽねっと事業（旭川市内のNPO法人が緊急時に子供を預かるシステムに参加し、仕事と育児の両立を支援）、消費生活相談、移住定住促進など18事業に及びます。

旭川市が一足先に中心市宣言（昨年12月）し、上川中央部8町のうち、美瑛町を除く鷹栖、東神楽、当麻、比布、愛別、上川、東川の各町が合意し、東川町は二次救急医療など17事業で連携することになりました。

今後各町は、具体的な取り組みを示す定住自立圏共生ビジョンを策定し、旭川市と連携してまちづくりを進めます。

「交通安全見守り隊『東小じいメン』」発足

町内の3老人クラブで活動されているみなさんが東川小学校（飯森修校長）の児童下校時に交通安全指導のために立ち上がりました。名づけて「交通安全見守り隊『東小じいメン』」。今年7月に活動を試行し、それぞれの老人クラブで検討した結果9月下旬から正式活動をスタートしました。

大雪ふれあいクラブ（高橋正雄会長、48人）、中央むつみクラブ（安川啓子会長、36人）、西部ゆうあいクラブ（加藤安夫会長、49人）の皆さん。明るい緑色ウィンドブレーカーを着て、学校帰りの時間帯、月1～2回交差点に立って子供たちを見守ります。特に近くの道道旭川旭岳温泉線は要注意。

街頭見守りは、4月から10月までの夏期期間中。いつもは同小の先生たちが交代で下校時の交通安全見守りをしていますが、月1、2回の職員会議の時間を利用して、老人クラブの皆さんが交代で見守ります。

新「名物」づくり、特産品ブランド構築セミナー

10月18、19の2日間、東川町農協ホールで特産品ブランド構築セミナー「自慢できる特産品づくりへの発想と開発」が開かれ、マーケッティング・コンサルタントの㈱プライムマネジメントコンサルティング代表、出村明弘氏が地域ブランド作りの基本を指南しました。

東川町観光地活性化・雇用創造協議会（藤田裕三会長）が開きました。

「東川に来た方に何をおみやげに勧めますか。観光客は何をおみやげに買っていくでしょうか?」と問いかけ、地域ブランド開発、地域経済活性化の必要性と開発アプローチの基本を指摘しました。

「話題性を売る、ターゲットを絞る、戦略と戦術の3つ。そして魅力的であるためにどんなメッセージを込めるかが大事」などと指摘しました。

そして「LOHAS」（健康で持続可能なライフスタイル）を開発テーマの一例として挙げ、「東川の魅力は食の文化」と、ブランドの新たな舞台と仕掛けづくり、全国にアピールするアイデアの一端などを披露しました。

時には見守ることが出来ませんでした。そこで地域の皆さんに相談して「東小じいメン」が誕生することになりました。

ネパールからくん炭製造装置研究に再び来町

もみがら利用開発センターで

10月18日、バイオマス原料の燃料製造をネパール国内で実用化させるため道内を視察研究しているネパールの研究者3人らが、今年も町内のノザワ物産（能沢勇人社長）のもみがら利用開発センター（東5号）などを視察しました。

元ネパール国立科学技術院技術部長で現在NGOグループ・ネパール環境エネルギーセンター（CEEN）化学分野担当のラメッシュ・マン・シンさん（60）、CEEN機械（農業機械）設計分野担当のスリマット・シュレスタさん（43）、昨年に続いて2度目に来日したネパール化学技術院技術専門員、イスワール・マン・マハラジャンさん（40）ら7人。

（独）国際協力機構（東京）＝JICAの草の根交流として来町し、昨年視察したノザワ物産のもみ殻くん炭製造システムを再び訪れました。

ネパールでは、もみ殻など農作物残さ、牛ふんを乾燥させたもの、雑草などが重要なエネルギー資源（燃料）として利用されているそうです。安価で新たなエネルギー源を開発する必要に迫られているといい、一般に利用されない松葉、松ぼっくりを燃料としてくん炭ペレットの生産システムを開発したい意向をもっています。安価で丈夫なノザワ物産のシステムがネパール国内に導入最適と判断、機械設計担当、化学反応システムの調査担当者とともに再度調査に来町しました。

管内老人福祉大会に400人集う

9月28日、農村環境改善センターで上川支庁地区老人クラブ連合会（宮下登会長）主催の22年度上川管内町村老人福祉大会が開かれました。

管内23市町村から各地の老人クラブ役員ら約400人が出席しました。

今年のテーマは「輪をひろげみんなの力支え愛」。クラブ会員の増加と会員同士の生きがい交流、活発な活動と交流を通して地域を豊かにする取り組みなどを誓い合いました。

会場では、いつまでも健康な歯を保つため「歯と口腔の健康について」と題して上川総合振興局保健環境部の羽田孝臣主任技師が口の健康手入れをアドバイス、各地の老人クラブ自慢の芸能発表も披露して大会が盛り上がりました。

席上、上川管内8町老人クラブの20人を功労者表彰、1人を感謝表彰し、本町から9人が受賞しました。

「君の椅子」題材に新曲～「JUNCO&CHEEP」公演

10月3日、農村環境改善センターで「君の椅子」プロジェクトにちなんで出来たという新曲「君の椅子」の発表コンサートがありました。

札幌を拠点に音楽活動をしている歌手のJUNCOさんとサックス奏者で音楽プロデューサーのCHEEP広石さん、そして2人のストリングスなどを加えたユニット「JUNCO&CHEEP」の新曲として初披露しました。

舞台には東川小スクールバンド14人がバックコーラスとして参加し、会場いっぱいの約250人に歌のプレゼントを届けました。君の椅子プロジェクトの発案者、磯田憲一旭川大学客員教授も舞台に登場。「君の椅子」が誕生した経緯を披露してくれました。

このコンサートは北海道180市町村公演と名づけて昨年から道内各地を巡回しているそうです。東川開催は64会場目。3枚目の最新CDアルバムのジャケット写真撮影で参加している町内在住の写真家、飯塚達央さんも舞台に登壇して会場と一緒になって合唱に参加しました。